第 2 回日米爆傷フォーラム（JUFBI 2017）
開 催 報 告

防衛医学研究センターは, 米国陸軍医学研究・物資司令部（USAMRMC）等と連携し，４月１４日から１６日の３日間，ホテルグランドヒル市ヶ谷（新宿区）において第 2 回日米爆傷フォーラム（JUFBI 2017）を開催しました。本会は昨年 6 月，ニュー山王ホテル（港区）で開催された第１回フォーラムに続くもので, 今回は日米に英国を加えた 3 カ国, 約 100 名の参加者を集めました。

近年米国を中心に，イラクやアフガニスタン等で即製爆弾（IED）による攻撃を受けた兵士が脳損傷（頭部爆傷）を負うケースが多発し，大きな社会問題となっています。特に，目立った外傷がなく通常の画像診断で異常が認められないため軽症と診断されながら，後遺症としてめまいや頭痛，記憶障害，社会的行動障害などを発症する比率が非常に高くなっており，心的外傷後ストレス障害（PTSD）との関連も指摘されています。

このような脳損傷は，爆発に伴う衝撃波によりもたらされると考えられていますが，そのメカニズムは不明であり，医学的対処法は確立していません。自衛隊においても隊員の海外派遣任務の安全確保のため，さらにここ数年，爆弾テロは一般市街地でも頻発するようになっていることから一般市民の安全・安心のため，その対策が急務となっています。

本フォーラムは，このような爆傷に対する防護技術，医学的対処をテーマに分野横断的な討議を行うことを目的としており，防衛関係機関のみならず一般大学等からも含め計 42 件（うち米国 19 件，英国 2 件）の発表が行われました。その内容は実験動物を用いた損傷メカニズムの解明，衝撃波の生体伝搬に関するコンピューターシミュレーション，人体モデルを用いた模擬実験，臨床例の紹介，新規圧力センサーや防護技術の開発など広汎，多岐にわたりました。非常に有意義な意見交換ができたとの感想が多く聞かれた一方，あらためて扱うべき問題の多様さ，複雑さも再認識されました。

このように爆傷に関する広汎，多岐の研究は一国で取り組むことは困難であり，現在欧州を中心とした NATO（北大西洋条約機構）による取り組み，米国とインド間での研究交流が進められています。本爆傷フォ

ーラムはアジア・環太平洋地域における新たな爆傷研究の拠点形成につながるものと期待されており，次回は 2018 年 5 月に日本において，さらに次々回は 2019 年に米国において開催する計画です。なお，本フォーラムの開催については，6 月 1 日付「朝雲」において紹介されました。